

患者が変われば医療が変わる 医療が変われば地域が変わる



島根益田がんケアサロン 代表
C・T・V創生研究所 所長 納賀 良一

1937年5月、石川県金沢市生まれ。同志社大学文学部卒。特殊精密機器メーカーの㈱フジキン総務部部長兼改革推進室リーダーを経て、1994年3月、1ターンで益田市移住。益田ドライビングスクール合宿型システム作りを依頼される(ガイアの夜明けで放映)。その後、C・T・V創生研究所設立。地域で観光、定住、教育、医療など街おこしを実施。2005年12月、全国初のがんサロン開設。

第32回 がん治療学会学術集會に招かれて

今年10月、横浜で開催された学術集會にPALメンバーとして招かれた。これまで4〜5回ほど参加しただろうか。規模の大きな集會で、1万人以上が来場。会場は医療者で満員だ。がん患者の私たちにもブースを与えられた。このように学

医療者と患者、腹割って話す場を

集會が患者にスペースを提供して、お互いが一緒に学び合う姿勢はうなずける。さらにステップアップしてほしい。

ノーベル賞を受賞された大隅典先生の講演を聞くチャンスも頂いた。さすがノーベル賞受賞者。凡人の私たちの及ぶところではないのを痛感した。講義はまったく理解出来なかった。それもそうだろう。ノーベル賞を受賞される方なのだから私たちには理解できないのが当たり前はず。大勢の知り合いの先生方との出会い、また新しい先生との出会いがあり、有意義な時間を過ごすことができた。学ぶことも多く、あたらしい情報を得て視察したい施設も沢山あった。帰ってからもこの成果をどう生かすかだろう。

反面ゆっくりとした時間もほしかった。なにか追われ過ぎていた感じ。見たいブースも沢山あったが時間が無いし、会場が広くて移動が大変。移動に10分以上費やすところもある。ポスターセッションはあったが、医療関係者の見学がもっと欲しかった。せつかくのチャンスなのだから医療者にも患者の活動を目にしてほしい。

ば今後の医療の進化は無い。それが残念。

もうひとつ残念なのは展示ブースを覗けなかったことだった。数年前、参加したときは自由に参加できたのに法律の壁があるらしい。患者とメーカーが本音で話しが出来るかもっと素晴らしい薬の開発ができると思う。全国には各種学会、研究集會は沢山あるが、患者に開かれた集會は少ない。がん治療学会は数年前から患者セッションを設けて参加する患者に助成もしている。有りがたいことだ。どの学会、研究会ももっと患者ファーストになってほしい。それが今後の医療の発展を向上させる力となるだろう。